

平成24年度第1回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会議事概要

- I. 日時： 平成24年6月30日（木） 午前10：40時から午後13時まで
- II. 場所： 公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者： 玉野委員、小林委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

- (1) 大学教育への提言報告書「未知の時代を切り拓く教育と ICT 活用」をまとめることにしている。この第2章を構成する「電気通信工学教育における教育改善モデル（その1）（その2）」を前年度に作成した。提言報告書では、さらに学士力とは何かを教員に向けて解説する必要があると考えている。また、教員の教育力または教育指導の能力というものをどのように考えており、高いレベルの教育力を実現するためのFDを、どのように構築するか戦略を描き、第2章に加えたい。
- (2) 電気通信工学教員の教育力を検討するに当たって、まず、「電気通信工学教員に期待される専門性」について検討を加え、期待される専門性を、使命感と倫理観・教員の姿勢の観点と、研究能力の観点、教育能力の観点から記述することとした。
- (3) 使命感と倫理観・教員の姿勢の観点については、「電気通信工学教育における教育改善モデル（その1）（その2）」を検討してきた際の考えを踏まえて、自然環境や社会環境との関わりに触れることとした。また、豊かな社会と人の幸福に対する貢献を表すために、人類の福祉への貢献という文言を含めることとした。以上の議論に加えて、教員に期待される姿勢について検討を行い、以下の案が作成された。
 - ① 電気通信の分野で人類の福祉に貢献できる専門家としての使命感と倫理観を有していること。
 - ② 自然環境や社会環境との関わりを常に認識し、電気通信工学の社会的役割と課題を複眼的にとらえられること。
- (4) 世界の潮流を捉えられること、イノベーションを提案できることが必要であり、他分野の専門領域との連携、協働して課題に取り組む姿勢も必要と考えられる。以上の議論を経て案が作成された。
 - ③ 世界の潮流を把握し、新しい技術の開発に意欲的に関わるイノベティブな姿勢があること。
 - ④ 他分野の専門領域や産業社会と連携し、協働して課題に取り組む姿勢を有していること。
- (5) 学生に気付きをさせる課題について議論し、以下の⑤の案が作成された。さらに、ICTなどの教育技法の活用を盛り込むこととし、案が作成された。
 - ⑤ 電気通信工学の観点から社会の諸課題との関連付けを気づかせ、その問題解決に主体的に取り組ませられること。
 - ⑥ ICTなどの教育技法を駆使して、発信型の教育ができること。

V. 次回の開催日程

平成23年8月4日（土） 13時30分から15時30分まで。場所：事務局会議室